

カカオ・チョコレート週刊ニュース 146号

2017年11月13日発行
株式会社立花商店 坂元麻美

1、市況の動き：両市場とも週を通して続伸、先週比でも大幅上昇



		11月6日	11月7日	11月8日	11月9日	11月10日	先週最高値	先週最低値	先週比	週内価格差	傾向
LDN	12月限月	1585	1596	1629	1632	1642	1571	1550	+71	21	↑
	3月限月	1605	1615	1652	1653	1664	1596	1574	+68	22	↑
NY	12月限月	2117	2163	2216	2198	2223	2123	2052	+100	71	↑
	3月限月	2118	2181	2214	2188	2223	2119	2055	+104	64	↑

2、クリスマスに向けてチョコレート価格上昇か

ハロウィーンに向けて下落していたチョコレート価格がカカオ豆需要の高まりによりクリスマスに向けて再び上昇か。世界的にカカオ豆の供給過多が続き、過去2年の中でも先物相場が低水準にあり、チョコレートの卸売価格を和らげている。しかしここ最近ではチョコレート消費が伸び在庫がはけ始めている兆候が見える。カカオ需要の指標となる磨砕量も世界的に伸び始めており、これが投資家の目に留まり再び投機マネーが戻り始めるかもしれない。

ニューヨーク先物価格は5月に17%下落したが、年間を通してみると0.7%の上昇となっており年末にかけて2017年の下落を取り戻しそうな勢いである。投資家は下記のポイントに注目している。

a) ホリデー需要

ハロウィーンを祝う人々にとっては朗報であったが、10月31日時点ではまだカカオ相場のリバウンドは十分ではなかった。9月10日から10月8日までの4週間のチョコレート1ピースあたりの平均卸価格はその前の4週間と比較し7.3%下落した。(ブルームバーグ シカゴリサーチセンター) アメリカのホリデーは菓子需要が高まる。アメリカ全世帯の75%がハロウィーンの際にはばらまき用の菓子をを用意している。

b) 西アフリカ情勢

世界最大のカカオ産地であるアイボリーコースト政府は、カカオ輸出ライセンスの発行を制限している。また、カカオ相場が大幅に下落した状態からどのように儲けを取り戻し、政府歳入を増やし、小規模農家の収入を増やしていかを隣国のガーナと協議している。世界銀行は、カカオ主産地となっている西アフリカ諸国に対して資金面のみならず、マーケティングを含めた戦略面についてもサポートする構えである。西アフリカだけで世界のカカオ収穫量の60%を占めており、こうした国々からの安定供給が世界のカカオ需要を支えるのに重要である。

3) ハーシーズ第3四半期の利益増

Reese's で知られるハーシーズは、原料であるカカオ豆の仕入れコスト削減により第3四半期の利益が20%増大する見込みだ。純利益は第3四半期が終了した10月1日時点で2億7千300万ドル(1株当たり1.28ドル)に伸びた。ちなみに昨年は2億2千700万ドル(1株当たり1.06ドル)であった。売上高は昨年の20億ドルからわずかに上昇し20億3000ドルとなった。



4) アイボリーコースト：降雨の影響で収穫期に向けてピリピリしている

～洪水の為、トラックが収穫に向かうことが出来ない

～雨続きでカカオ豆の乾燥工程が十分に進まない

間もなく始まる収穫期に向けて、農家は雨による道の氾濫やクロップが腐る懸念で頭がいっぱいである。アイボリーのカカオ主産地の一つである南西部の村 Sassandra では道が氾濫し使用不可能な状況であり、カカオ豆集荷業者のトラックがカカオ豆の収穫に向かえずにいる。また雨続きの天気でカカオ豆の乾燥が十分にできずにカカオ豆が腐ってしまう懸念がある。Sassandra村の農家は「あっちこちに泥があって、川の水もあふれて道をふさいでいるよ。状況は深刻だ。」と述べている。

昨年はアイボリーコーストやガーナの豊作によりカカオ豆は世界的に供給過多の状況にあったが、2017-2018期は悪天候の影響を受けカカオ豆価格の上昇が見込まれる。

ニューヨークのカカオ先物相場は1か月連続上昇となり、こうした連続上昇は2015年11月ぶりである。10月24日に発表されたBMIリサーチの記事によるとアイボリーコーストとガーナの今シーズンのクロップは10%ほど下落する模様。すでにアイボリーコーストの収量減少の兆候が出始めている。今シーズンが始まり最初の4週間で、農家は160トンのカカオ豆を出荷したが、昨年の195トンをすでに下回っている。中西部の村 Vavoua、北部の村 Daloa では強い雨が続きカカオの成長を阻害している。

「雨が止んで晴れ間が出てくれれば良いのだが、雨が止んでも常に曇っている。」と農家が嘆いている。

5) その他の産地

ガーナ

～雨が続けているが晴れ間もある。

～木に花がなり始め、新しいカカオポッドが実っている。全ては順調で収穫期に向けて良い実がなるだろう。

～ただし収穫時期は例年より遅れそう。メインクロップのピークは12月から来年1月になるだろう。

カメルーン

～先週は雨が続きカカオの収穫が難しい状況。

～農家は殺虫剤と肥料の散布に懸命に取り組んでいる。一部の農家はとれたカカオを販売する際、正式な許可を得ていない買付業者に対しては助成金を含んだレートで販売している。

ナイジェリア

～遅れながらも収穫が始まり農家から集荷業者に持ち込まれるカカオ豆が先月よりも60%増加した。また日光照射によりブラックポッド病の懸念が薄れてきた。

～天候が回復してきたので農家は薬品をまいたりするなど、農地の洗浄を進めている。

ロンドン先物価格が約5か月ぶりに
1600ポンドを上回ったので、
上昇傾向になる可能性も……

《お問い合わせ先、配信希望または停止のご連絡先》

株式会社立花商店 東京支店 坂元

TEL 03-5785-3545 a-sakamoto@tachibana-grp.co.jp

